

得

前二項ノ場合ニ於テ審判官及檢察官ヲ選用スルノ權ハ國務總理大臣ニ屬ス

第六條 法院ニ審判官ヲ置キ檢察廳ニ檢察官ヲ置ク

第七條 區法院ノ審判權ハ單獨ノ審判官之ヲ行使ス

地方法院ノ審判權ハ第一審事件ニ付テハ單獨ノ審判官之ヲ行使シ第二審事件ニ付テハ審判官三人ヲ

以テ組織シタル庭ノ合議ニ依リ之ヲ行使ス

高等法院ノ審判權ハ審判官三人ヲ以テ組織シタル庭ノ合議ニ依リ之ヲ行使ス

最高法院ノ審判權ハ審判官五人ヲ以テ組織シタル庭ノ合議ニ依リ之ヲ行使ス

第八條 檢察廳ノ權限ハ檢察官之ヲ行使ス

第九條 審判官ハ法律ニ依リ獨立シテ審判權ヲ行使シ檢察官ハ其ノ職務ノ執行ニ付上司ノ指揮ヲ承ク

司法部大臣ハ檢察事務ノ執行ニ付檢察官ヲ指揮スルコトヲ得

第十條 審判官二人以上存スル區法院ニ監督審判官ヲ置キ地方法院、高等法院及最高法院ニ院長ヲ置ク

ク

地方法院、高等法院及最高法院ニ次長ヲ置クコトヲ得

第十一條 檢察官二人以上存スル區檢察廳ニ監督檢察官ヲ置キ地方檢察廳、高等檢察廳及最高檢察廳ニ廳長ヲ置ク

地方檢察廳、高等檢察廳及最高檢察廳ニ次長ヲ置クコトヲ得

第十二條 法院及檢察廳ニ書記官ヲ置ク

書記官ハ審問ニ立會ヒ記錄ヲ掌理シ卷宗ヲ保管シ通譯又ハ翻譯ヲ爲シ其ノ他法令ノ定ムル職務ヲ執行シ並ニ上司ノ命ヲ承ケ法院又ハ檢察廳ノ庶務ニ

従事ス

第十三條 法院長、檢察廳長、監督審判官及監督檢察官ハ其ノ廳ニ配屬セラレタル高等官試補ヲシテ臨時ニ書記官又ハ執行官ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十四條 區法院及區檢察廳ニ監督書記官ヲ置キ地方法院、高等法院、最高法院、地方檢察廳、高等

檢察廳及最高檢察廳ニ書記官長ヲ置ク

第十五條 削除

第十六條 區法院ニ執行官ヲ置ク

執行官ハ裁判ノ執行其ノ他法令ノ定ムル事務ヲ管掌ス

第十七條 執行官二人以上存スル區法院ニ監督執行官ヲ置ク

第十八條 區法院ニ送達吏ヲ置ク

送達吏ハ文書ノ送達其ノ他法令ノ定ムル事務ニ從事ス

第十八條ノ二 法院長、檢察廳長、監督審判官、監督檢察官、獨立審判官及獨立檢察官ハ其ノ廳ニ配屬セラレタル委任官試補ヲシテ書記官、執行官又ハ送達吏ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得

第十九條 法院及檢察廳ノ設立廢止並ニ法院ノ管轄區域ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

檢察廳ノ管轄區域ハ對置法院ノ管轄區域ニ同ジ

第二十章 區法院ハ左記民事訴訟事件ノ第一審ヲ管

掌ス

一 訴訟物ノ價額二千圓ヲ超過セザル訴訟事件

二 建物ノ賃貸借關係ニ基ク訴訟事件

三 占有權ニ基ク訴訟事件

第二十一條 區法院ハ他ノ法院ノ管轄ニ屬セザル刑事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス

第二十二條 區法院ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外非訟事件ヲ管轄ス

第二十三條 區法院ノ管轄スル非訟事件中登記及公證ノ事務ハ高等官試補及書記官ヲシテ公證ノ事務ハ執行官ヲシテ各之ヲ處理セシムルコトヲ得

第二十四條 司法部大臣ハ區法院ノ登記事務ノ一部ヲ處理セシムル爲其ノ分所ヲ設置スルコトヲ得

第二十五章 地方法院

一 區法院ノ管轄ニ屬セザル訴訟事件

二 破産事件

第二十六條 地方法院ハ左記刑事訴訟事件ノ第一審

轄ス

一 訴訟物ノ價額二千圓ヲ超過セザル訴訟事件

二 建物ノ賃貸借關係ニ基ク訴訟事件

三 占有權ニ基ク訴訟事件

第二十一條 區法院ハ他ノ法院ノ管轄ニ屬セザル刑事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス

第二十二條 區法院ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外非訟事件ヲ管轄ス

第二十三條 區法院ノ管轄スル非訟事件中登記及公證ノ事務ハ高等官試補及書記官ヲシテ公證ノ事務ハ執行官ヲシテ各之ヲ處理セシムルコトヲ得

第二十四條 司法部大臣ハ區法院ノ登記事務ノ一部ヲ處理セシムル爲其ノ分所ヲ設置スルコトヲ得

第二十五章 地方法院

一 區法院ノ管轄ニ屬セザル訴訟事件

二 破産事件

第二十六條 地方法院ハ左記刑事訴訟事件ノ第一審

ヲ管轄ス

一 區法院ノ管轄ニ屬セザル訴訟事件

二 破産事件

第二十六條 地方法院ハ左記刑事訴訟事件ノ第一審

ヲ管轄ス

一 區法院ノ管轄ニ屬セザル訴訟事件

二 破産事件

ヲ管轄ス

- 一 重罪ニ該ル事件
- 二 輕罪中情節繁雜ナル事件ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ル事件

第二十七條 地方法院ハ第二審トシテ左記事件ヲ管轄ス

- 一 區法院ノ判決ニ對スル控訴事件
- 二 區法院ノ判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件

但シ高等法院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク

第二十八條 地方法院ハ第二審事件ヲ審判スル爲民

事庭及刑事庭ヲ設ク

庭ハ審判官三人ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ一人審判長トナル

庭ノ數ハ司法部大臣之ヲ定ム

第二十九條 地方法院ノ庭ガ審判ヲ行フ場合ニ於テ

ハ候補審判官一人ニ限り其ノ組織員ト爲ルコトヲ得

第三十條 庭ニ庭長ヲ置ク

院長及次長ハ庭長ト爲ル

庭長ハ審判長ト爲ル庭長ニ支障アルトキハ資深庭員審判長ト爲ル

第四章 高等法院

第三十一條 高等法院ハ左記刑事訴訟事件ノ第一審ヲ管轄ス

- 一 内亂ノ罪
- 二 背叛ノ罪
- 三 國交危害ノ罪
- 四 軍機保護法ノ罪中重罪ニ該ル罪
- 五 暫行懲治叛徒法ノ罪

第三十二條 高等法院ハ第二審トシテ左記事件ヲ管轄ス

- 一 地方法院ノ第一審判決ニ對スル控訴事件
- 二 地方法院ノ第一審トシテ爲シタル判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件但シ最高法院ノ管轄ニ屬スルモノヲ除ク

第三十三條 高等法院ハ終審トシテ左記事件ヲ管轄ス

- 一 地方法院ノ第二審判決及區法院ノ判決ニ對ス

ル上告事件

二 地方法院ノ第二審トシテ爲シタル判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件

三 區法院ノ爲シタル上告却下ノ裁定ニ對スル抗告事件

第三十四條 高等法院ガ終審トシテ爲シタル裁判ニシテ法令ノ解釋ヲ宣示シタルモノハ當該事件ニ付

下級審ヲ覆束ス

第三十五條 高等法院ニ民事庭及刑事庭ヲ設ク

庭ハ審判官三人ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ一人審判長ト爲ル

庭ノ數ハ司法部大臣之ヲ定ム

第三十六條 庭ニ庭長ヲ置ク

院長及次長ハ庭長ト爲ル

庭長ハ審判長ト爲ル庭長ニ支障アルトキハ資深庭員審判長ト爲ル

第五章 最高法院

第三十七條 最高法院ハ第一審且終審トシテ大逆罪

ニ該ル刑事訴訟事件ヲ管轄ス

第三十八條 最高法院ハ終審トシテ左記事件ヲ管轄ス

- 一 高等法院ノ判決及地方法院ノ第一審判決ニ對スル上告事件
- 二 高等法院ノ第一審又ハ第二審トシテ爲シタル判決以外ノ裁判ニ對スル抗告事件
- 三 地方法院ノ爲シタル上告却下ノ裁定ニ對スル抗告事件

第三十九條 最高法院ガ終審トシテ爲シタル裁判ニシテ法令ノ解釋ヲ宣示シタルモノハ當該事件ニ付

下級審ヲ覆束ス

第四十條 最高法院ニ民事庭及刑事庭ヲ設ク

庭ハ審判官五人ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ一人審判長ト爲ル

庭ノ數ハ司法部大臣之ヲ定ム

第四十一條 庭ニ庭長ヲ置ク

院長及次長ハ庭長トナル

庭長ハ審判長ト爲ル庭長ニ支障アルトキハ資深庭員審判長ト爲ル

員審判長ト爲ル

第四十二條 最高法院が法令ノ解釋ニ關シ前ニ爲シタル裁判ト異ナル裁判ヲ爲サントスルトキハ聯合庭ノ審判ニ依ルコトヲ要ス
聯合庭ハ事件ノ性質ニ從ヒ民事庭又ハ刑事庭ノ審判官全員或ハ民事庭又刑事庭ノ審判官全員ヲ以テ之ヲ組織ス

院長ハ當該事件ヲ擔任スル庭ノ請求ニ因リ聯合庭ニ依ル審判ヲ命ジ竝ニ聯合庭ノ組織ヲ定ム

第四十三條 聯合庭ノ審判ハ組織員三分ノ二以上蒞庭スルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ
院長ハ聯合庭ノ審判長ト爲ル院長ニ支障アルトキハ資深審判官審判長ト爲ル

第六章 檢察廳

第四十四條 各級檢察廳ハ對置法院ノ管轄ニ屬スル事件ノ範圍内ニ於テ第二條ノ權限ヲ有ス

第四十五條 司法部大臣ハ高等官試補、書記官又ハ其ノ地ノ警察官若ハ憲兵軍官ヲシテ區檢察廳ノ檢察官ノ行フベキ事務ヲ處理セシムルコトヲ得
第四十六條 第四十四條ノ規定ハ緊急ノ必要又ハ法定ムル所ニ依ル

令ニ別段ノ規定アル場合ニ檢察官ガ其ノ所屬檢察廳ノ管轄區域外ニ於テ爲シ又ハ其ノ管轄ニ屬セザル事件ニ付テ爲シタル偵査其ノ他ノ行爲ノ效力ヲ妨グルコトナシ

第四十七條 最高檢察廳、高等檢察廳及地方檢察廳ハ各其ノ直接下級檢察廳ノ爲シタル不起訴處分ニ對スル抗訴事件ヲ管轄ス

第二編 法院及檢察廳ノ職員

第一章 審判官及檢察官

第四十八條 審判官及檢察官ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

- 一 司法科高等官適格考試又ハ審判官及檢察官タルベキ司法科高等官登格考試ニ及格シタル者
- 二 薦任官タル司法部高等官、執行官、書記官及刑務官ヲ審判官及檢察官ニ任用スル爲ノ考試ニ及格シタル者
- 三 教授、教官又ハ薦任官タル助教トシテ建國大學、新京法政大學、國立大學哈爾濱學院又ハ中央司法職員訓練所ニ於テ三年以上法律學

ノ講義ヲ擔任シタル者

四 律師トシテ五年以上實務ニ從事シタル者
五 外國ニ於テ審判官又ハ檢察官タリ得ベキ資格ヲ有スル者

前項第一號及第二號ノ考試ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ審判官又ハ檢察官ニ任用セズ

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 二 禁治產者
- 三 準禁治產者
- 四 懲戒ノ處分ニ因リ免官セラレ又ハ律師ノ資格ヲ褫奪セラレ未ダ復權セザル者

外國ニ於テ前項各號ノ一ニ該當スル處分又ハ宣告ヲ受ケタル者亦前項ニ準ズ

第五十條 新ニ審判官又ハ檢察官ニ任用セラレタル者ハ一時之ヲ候補審判官又ハ候補檢察官トシテ區法院、地方法院、區檢察廳又ハ地方檢察廳ニ勤務セシムルコトヲ得

候補審判官及候補檢察官ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ勤務ヲ命セラレタル廳ノ審判官又ハ檢察官ト同一ノ職務ヲ行フ

第五十一條 審判官檢察官ハ特任、簡任又ハ薦任トス

第五十二條 最高法院長ハ特任審判官ヲ以テ之ヲ親補シ最高檢察廳長ハ特任檢察官ヲ以テ之ヲ親補ス
最高法院ノ次長及庭長、高等法院ノ院長及次長ハ司法部大臣ノ具狀ヲ經テ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ簡任審判官ヲ以テ之ヲ補シ最高檢察廳ノ次長、高等檢察廳ノ廳長及次長ハ司法部大臣ノ具狀ヲ經テ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ簡任檢察官ヲ以テ之ヲ補ス

前二項以外ノ審判官及檢察官ハ司法部大臣ノ具狀ヲ經テ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ簡任又ハ薦任ノ審判官或ハ檢察官ヲ以テ之ヲ補ス

第五十三條 五年以上審判官タリシ者ニ非ザレバ高等法院ノ審判官ニ補セラルルコトヲ得ズ
十年以上審判官タリシ者ニ非ザレバ最高法院ノ審

判官ニ補セラルルコトヲ得ズ

第五十四條 審判官タリ得ベキ資格ヲ有スル者左記各號ノ職ニ在リタルトキハ前條ノ適用ニ付テハ之ヲ審判官ノ在職ト看做ス

一 檢察官

二 司法部高等官

三 軍法官

四 建國大學、新京法政大學、國立大學哈爾濱學院

又ハ中央司法職員訓練所ニ於テ法律學ノ講義ヲ擔任スル教授、教官又ハ薦任官タル助教授

五 實務ニ従事スル律師

審判官タリ得ベキ資格ヲ有スル者外國ニ於テ審判官又ハ前項第一號乃至第三號及第五號ノ職ニ在リタルトキ亦前項ニ同ジ

第五十五條 審判官及檢察官ハ左ノ事項ヲ爲スコトヲ得ズ

一 教治ニ關與シ又ハ政黨若ハ政社ニ加入スルコト

二 商業ヲ營ミ又ハ營利法人ノ役員ト爲ルコト

審判官ハ行政官ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

第五十六條 審判官及檢察官禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第五十七條 審判官及檢察官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退官トス

一 停年ニ達シタルトキ

二 第六十條第一項第三號及第四號ノ規定ニ依リ休職ヲ命ゼラレ滿期ニ至リタルトキ

前項第一號ノ停年ハ最高法院ノ院長及次長並ニ最高檢察廳ノ廳長及次長ニ在リテハ滿六十三歳トシ其ノ他ノ審判官及檢察官ニ在リテハ滿六十歳トス

第五十八條 審判官及檢察官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免ズルコトヲ得

一 不具、廢疾又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ其ノ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ

二 不良ナル嗜好ヲ有シ矯正ノ見込ナキトキ

三 傷痍疾病ノ爲其ノ職ニ堪ヘザルニ因リ其ノ他正當ノ事由ニ因リ免官ヲ願出デタルトキ

前項第一號又ハ第二號ニ依リ其ノ官ヲ免ズルトキ

ハ豫メ法官考選委員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第五十九條 司法行政上必要アルトキハ審判官ノ意ニ反スル場合ト雖法官考選委員會ノ決議ヲ經テ之ヲ轉職セシムルコトヲ得

第六十條 審判官及檢察官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命ズルコトヲ得

一 刑事訴追又ハ懲戒裁判ノ請求アリタルトキ

二 法院又ハ檢察廳ヲ廢止シ或ハ其ノ組織ヲ變更シ因テ其ノ廳ノ審判官又ハ檢察官ヲ補スベキ關位ナキニ至リタルトキ

三 六月以上生死不明ナルトキ

四 身體又ハ精神ノ故障ニ因リ三月以上其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキ

五 兵役其ノ他特別ノ公務ノ爲六月以上其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキ

但シ第三號ノ場合ニ在リテハ公務ニ因ルトキハ二年前項ノ休職ノ期間ハ第一號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ法院又ハ法官懲戒法院ニ繫屬中、第三號ノ

前項ノ休職ノ期間ハ第一號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ法院又ハ法官懲戒法院ニ繫屬中、第三號ノ

場合ニ在リテハ六月、第四號ノ場合ニ在リテハ二年、第二號及第五號ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ノ存續中トス

第六十一條 審判官及檢察官ハ前五條ノ場合ヲ除クノ外懲戒ノ處分ニ因ルニ非ザレバ其ノ意ニ反シテ免官、轉職、休職又ハ減俸セララルコトナシ但シ司法行政上ノ必要ニ因リ檢察官ニ轉職ヲ命ズルハ此ノ限ニ在ラズ

審判官及檢察官ハ法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ノ執行ヲ停止セララルコトナシ

第六十二條 審判官及檢察官職務ノ執行ヲ停止セラレタルトキハ其ノ期間中俸給ノ半額ヲ支給ス

第六十三條 審判官及檢察官ノ懲戒ニ關スル事項ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條 法官考選委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 書記官

第六十五條 書記官ハ薦任又ハ委任トス

最高法院、高等法院、最高檢察廳及高等檢察廳ノ

書記官長ハ薦任書記官地方法院及地方檢察廳ノ書記官長ハ薦任又ハ委任ノ書記官其ノ他ノ書記官ハ薦任又ハ委任ノ書記官ヲ以テ之ヲ補ス

第六十六條 書記官長及監督書記官ハ上司ノ命ヲ承ケ司法行政ニ關スル書記官ノ事務ヲ指揮監督ス

第六十七條 書記官ノ職務執行ノ方法ニ關スル事項ハ司法部大臣之ヲ定ム

第六十八條 削除

第三章 執行官

第六十九條 執行官ハ薦任又ハ委任トス

第七十條 監督執行官ハ上司ノ命ヲ承ケ司法行政ニ關スル執行官ノ事務ヲ指揮監督ス

第七十一條 執行官ハ其ノ所屬區法院ヲ管轄スル地方法院ノ管轄區域内ニ於テ其ノ職務ヲ行フ

第七十二條 執行官ノ職務ノ執行ニ關スル事項ハ司法部大臣之ヲ定ム

第四章 送達吏

第七十三條 送達吏ハ委任トス

第七十四條 送達吏ハ其ノ所屬區法院ヲ管轄スル地

方法院ノ管轄區域内ニ於テ其ノ職務ヲ行フ

第七十五條 送達吏ノ職務ノ執行ニ關スル事項ハ司法部大臣之ヲ定ム

第五章 庭吏

第七十六條 法院及檢察廳ニ庭吏ヲ置ケ庭吏ハ委任トス

第七十七條 庭吏ハ審判官、檢察官及書記官ノ命ニ從ヒ訴訟關係人ヲ導引シ其ノ他司法部大臣ノ定ムル事務ニ從事ス

第七十八條 書類ノ送達ヲ要スル場合ニ於テ送達吏ニ支障アルトキハ庭吏ヲシテ之ヲ送達セシムルコトヲ得

第七十八條ノ二 法院長、檢察廳長、監督審判官、監督檢察官、獨任審判官及獨任檢察官ハ其ノ廳ニ配屬セラレタル委任官試補ヲシテ庭吏ノ事務ヲ處理セシムルコトヲ得

第三編 司法事務ノ處理

第一章 事務ノ分配並ニ代理

第七十九條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三

十一日ニ終ル

第八十條 地方法院、高等法院及最高法院ニ於ケル庭長並ニ庭員ノ配置ハ院長次長及庭長ト協議シテ毎年豫メ之ヲ定ム

第八十一條 法院ノ事務ハ處務規程ニ按照シ區法院ニ在テハ各審判官ニ地方法院ニ在テハ各庭及各單獨審判官ニ高等法院及最高法院ニ在テハ各庭ニ之ヲ分配ス

前項ノ事務分配ノ方法ハ區法院ニ在テハ監督審判官地方法院ニ在テハ第一審事件ニ付テハ院長次長ト協議シ第二審事件ニ付テハ院長次長及庭長ト協議シ高等法院及最高法院ニ在テハ院長次長及庭長ト協議シテ毎年豫メ之ヲ定ム

第八十二條 法院ノ事務分配一旦定マリタルトキハ該司法年度中之ヲ變更セズ但シ事務分擔著シク其ノ均衡ヲ失シ又ハ審判官ノ疾病其ノ他已ムヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十三條 區法院ノ審判官中支障ノ爲其ノ擔任事務ヲ處理スルコト能ハザル者アルトキハ該法院ノ

他ノ審判官之ヲ代理ス

前項ノ代理順序ハ監督審判官毎年豫メ之ヲ定ム

第八十四條 前條ノ規定ニ依リ代理ヲ爲シ得ベキ審判官ナキトキハ該管地方法院長ハ次長ト協議シテ地方法院審判官又ハ管内ノ區法院審判官ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得

第八十五條 地方法院ノ審判官中支障ノ爲其ノ擔任事務ヲ處理スルコト能ハザル者アルトキハ該法院ノ他ノ審判官之ヲ代理ス

前項ノ代理順序ハ第一審事件ニ付テハ地方法院長次長ト協議シ第二審事件ニ付テハ地方法院長次長及庭長ト協議シテ毎年豫メ之ヲ定ム

第八十六條 前條ノ規定ニ依リ代理ヲ爲シ得ベキ審判官ナキトキハ地方法院長ハ前條第二項ノ區別ニ從ヒ次長又ハ次長及庭長ト協議シテ管内ノ區法院審判官ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得

第八十七條 高等法院ノ審判官中支障ノ爲其ノ擔任事務ヲ處理スルコト能ハザル者アルトキハ該法院ノ他ノ審判官之ヲ代理ス

前項ノ代理順序ハ高等法院長次長及庭長ト協議シテ毎年豫メ之ヲ定ム

第八十八條 前條ノ規定ニ依リ代理ヲ爲シ得ベキ審判官ナキトキハ高等法院長ハ次長及庭長ト協議シテ管内ノ地方法院審判官ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得

第八十九條 最高法院ノ審判官中支障ノ爲其ノ擔任事務ヲ處理スルコト能ハザル者アルトキハ該法院ノ他ノ審判官之ヲ代理ス
前項ノ代理順序ハ最高法院長次長及庭長ト協議シテ毎年豫メ之ヲ定ム

第九十條 前條ノ規定ニ依リ代理ヲ爲シ得ベキ審判官ナキトキハ最高法院長ハ次長及庭長ト協議シテ高等法院審判官ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得

第九十一條 司法部大臣ハ區法院ガ其ノ事務ノ全部又ハ一部ヲ處理シ得ザル事由ノ存スル場合ニ該管地方法院管内ノ他ノ區法院ヲシテ其ノ事務ヲ代行セシムルコトヲ得

第九十二條 檢察廳ノ事務ハ處務規程ニ按照シ區檢

察廳ニ在テハ監督檢察官各檢察官ニ地方檢察廳、高等檢察廳及最高檢察廳ニ在テハ廳長次長ト協議シテ各檢察官ニ之ヲ分配ス

第九十三條 檢察廳長ハ次長ト協議シテ其ノ管内檢察廳ノ管轄ニ屬スル事務ヲ自ラ處理シ又ハ之ヲ次長若ハ其ノ管内檢察廳ノ他ノ檢察官ヲシテ處理セシムルコトヲ得

第九十四條 法院及檢察廳ノ處務規程ハ司法部大臣之ヲ定ム

第二章 開庭

第九十五條 公判庭ハ法院又ハ其ノ分庭内ニ於テ之ヲ開ク但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ司法部大臣ノ認可ヲ受ケ管轄區域内ノ法院其ノ他ノ場所ニ於テ開庭スルコトヲ得

第九十六條 公判庭ハ定數ノ審判官蒞庭スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

法院長必要アリト認ムルトキハ審判長ノ請求ニ依リ定員外ニ補充審判官ヲ指定シテ蒞庭セシムルコトヲ得

定員審判官ニ支障アルトキハ補充審判官定員ニ加ハリ該庭ノ審判ヲ完結ス

第九十七條 公判ノ公開ヲ停止スル裁定ハ理由ヲ開示シテ之ヲ宣告スベシ

公判ノ公開ヲ停止シタルトキト雖モ審判長ハ適當ト認ムル者ニ在庭ヲ許可スルコトヲ得

第九十八條 審判長ハ開庭中法庭ノ秩序ヲ維持スルノ權ヲ有ス

第九十九條 審判長ハ法庭ノ威嚴又ハ秩序ヲ害スル虞アル者ノ入庭ヲ禁止シ又ハ其ノ退庭ヲ命ズルコトヲ得

第一百條 審判長ハ法庭ノ秩序ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ開庭中審判ヲ妨ゲ又ハ不當ノ言動ヲ爲シタル者ヲ閉庭ニ至ル迄看管スルコトヲ得

第一百一條 公判ノ公開ヲ停止シ又ハ第九十九條ノ規定ニ依リ入庭ヲ禁止シ若ハ退庭ヲ命ジタルトキハ之ヲ其ノ理由ト共ニ訴訟記録中ニ記明スベシ前條ノ規定ニ依リ看管ヲ命ジタルトキ亦同ジ

第一百二條 第九十七條第二項及第九十八條乃至第一百

條ニ規定スル審判長ノ權限ハ單獨審判官ニモ亦屬ス

第一百三條 審判官、檢察官、書記官及律師公判庭ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ定式ノ制服ヲ着用ス

第三章 合議

第一百四條 合議ニ依リ裁判ヲ行フ場合ハ本法ノ定ムル所ニ遵ヒ定數ノ審判官評議シ過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決定ス

第一百五條 審判長ハ合議ヲ開キ竝ニ其ノ議事ヲ綜理ス

第一百六條 合議ニ際シテハ資淺審判官ヨリ順次意見ヲ開陳シ審判長ニ至テ終ル

第一百七條 數額ニ關シ審判官ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ達セザルトキハ最モ多額ノ意見ヨリ順次之ヲ次ニ多額ノ意見ニ算入シ過半數ニ達スルニ至テ止ム

刑事ニ關シ審判官ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ達セザルトキハ被告ニ最モ不利ナル意見ヨリ順

次之ヲ被告ニ次ニ不利ナル意見ニ算入シ過半数ニ達スルニ至テ止ム

第百八條 合議ハ之ヲ公開セズ但シ高等官試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得合議ノ顛末竝ニ審判官ノ意見及多少ノ數ハ之ヲ漏洩スルコトヲ得ズ

第四章 司法事務ノ共助

第百九條 法院ハ其ノ事務ノ處理ニ關シ法律ノ定ムル所ニ依リ互ニ補助ヲ爲ス
補助ノ囑託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ區法院ニ對シテ之ヲ爲ス

第百十條 檢察廳ハ其ノ事務ノ處理ニ關シ法令ノ定ムル所ニ依リ互ニ補助ヲ爲ス

第百十一條 書記官、司法警察官吏竝ニ執行官ハ各其ノ事務ノ處理ニ關シ法令ノ定ムル所ニ依リ互ニ補助ヲ爲ス

第四編 行政 監督

第一章 司法行政ノ機關

第百十二條 法院長及檢察廳長ハ其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル區法院ノ監督審判官及獨任審判官竝ニ區檢

察廳ノ監督檢察官及獨任檢察官ハ其ノ廳ノ行政事務ヲ掌ル

分庭ノ資深庭長、分處ノ資深檢察官及庭長ハ其ノ分庭、分處又ハ庭ノ行政事務ヲ掌ル

法院及檢察廳ノ次長ハ其ノ院長又ハ廳長ノ行政事務ヲ輔佐ス

第百十三條 法院長又ハ檢察廳長ニ支障アルトキハ次長之ヲ代理シ次長ニ支障アルトキハ資深庭長又ハ資深檢察官之ヲ代理ス

監督審判官又ハ監督檢察官ニ支障アルトキハ資深審判官又ハ資深檢察官之ヲ代理シ獨任ノ審判官又ハ檢察官ニ支障アルトキハ其ノ司法事務ヲ代理ス

分庭ノ資深庭長、分處ノ資深檢察官又ハ庭長ニ支障アルトキハ席次之ニ次グ庭長、檢察官又ハ審判官之ヲ代理ス

第百十四條 行政事務ヲ掌ル者ハ司法部大臣又ハ上級監督官ノ諮問又ハ命令ニ應ジ法制、司法行政其ノ他ニ關スル意見ヲ開陳シ竝ニ必要ナル資料ヲ提

出スル義務ヲ負フ

第二章 監督權ノ行使

第百十五條 行政監督權ノ行使ハ左ノ規定ニ依ル

一 司法部大臣ハ一切ノ法院及檢察廳ヲ監督ス
二 最高法院長ハ該院ヲ監督シ最高檢察廳長ハ該廳及下級檢察廳ヲ監督ス

三 高等法院長ハ該院及其ノ分庭竝ニ管内ノ下級法院ヲ監督シ高等檢察廳長ハ該廳及其ノ分處竝ニ管内ノ下級檢察廳ヲ監督ス

四 地方法院長ハ該院及其ノ分庭竝ニ管内ノ區法院ヲ監督シ地方檢察廳長ハ該廳及其ノ分處竝ニ管内ノ區檢察廳ヲ監督ス

五 區法院ノ監督審判官又ハ獨任審判官ハ該院及其ノ分所ヲ監督シ區檢察廳ノ監督檢察官又ハ獨任檢察官ハ該廳ヲ監督ス

第百十六條 司法警察吏其ノ他法令ニ依リ司法警察ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ司法部大臣及檢察廳ノ監督ニ服ス

第百十七條 監督官ハ職務ヲ廢弛シ又ハ侵越スル者

アルトキハ傲告ヲ加ヘテ之ヲ勤慎セシメ行止不檢ナル者アルトキハ傲告ヲ加ヘテ之ヲ改改セシム但シ傲告ヲ加フル前該官吏ヲシテ申辯セシムベシ

第百十八條 前條ニ依ル傲告ノ處分ハ當該官吏ニ對スル懲戒ノ訴追ヲ妨グルコトナシ

第百十九條 司法事務ノ處理其ノ當ヲ得ザルトキハ利害關係人ハ司法部大臣其ノ他ノ監督官ニ申告シテ監督權ノ發動ヲ促スコトヲ得但シ訴訟法其ノ他ノ法令ニ於テ不服ノ申立方法ヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十條 行政監督ノ權ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ審判ニ涉及シ竝ニ審判官ノ裁斷ヲ左右スルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(康德三年六月勅令第八五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

附則

(康德四年三月勅令第三二號)
本法ハ康德四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(康德四年一月勅令第三五三號)
本法ハ康德四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(康德五年五月勅令第一〇二號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(康德五年九月勅令第二三八號)
本法ハ康德五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(康德六年四月勅令第七八號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(康德七年四月勅令第五七號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

(康德七年一月勅令第三四〇號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○暫行興安各省
審判署條例

(康德四年九月一日
勅令第二六〇號)

改正 康六一勅二一四

朕組織法(第三十六條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行興安各省審判署條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
暫行興安各省審判署條例

第一條 興安各省ノ旗又ハ縣ニ審判署及檢察署ヲ置ク

第二條 審判署及檢察署ノ設立及管轄區域ハ別表ニ依ル
民事刑事ノ訴訟事件、非訟事件並ニ其ノ他ノ事件ヲ管轄ス但シ區法院ノ管轄ニ屬スル事件ノ第二審ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 審判署ガ區法院ノ管轄ニ屬スル事件ニ付爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ地方法院之ヲ管轄シ地方法院ノ管轄ニ屬スル事件ニ付爲シタル

裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ高等法院之ヲ管轄ス
審判署ガ區法院ノ管轄ニ屬スル事件ニ付爲シタル
判決ニ對スル上告ハ高等法院之ヲ管轄シ地方法院
ノ管轄ニ屬スル事件ニ付爲シタル判決ニ對スル上
告ハ最高法院之ヲ管轄ス

第四條 檢察署ハ審判署ノ管轄ニ屬スル事件ノ範圍
内ニ於テ檢察事務ヲ管掌ス

第五條 檢察署ガ區檢察廳ノ管轄ニ屬スル事件ニ付
爲シタル不起訴處分ニ對スル抗訴ハ地方法院檢察廳之
ヲ管掌シ地方檢察廳ノ管轄ニ屬スル事件ニ付爲シ
タル不起訴處分ニ對スル抗訴ハ高等檢察廳之ヲ管
掌ス

第六條 審判署ハ審判員及書記官ヲ置ク
審判員ハ審判官ノ爲スベキ職務ヲ行ヒ書記員ハ執
行官、書記官及送達吏ノ爲スベキ職務ヲ行フ
審判員ハ旗長又ハ縣長ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 檢察署ニ檢察員及書記員ヲ置ク
檢察員ハ檢察官ノ爲スベキ職務ヲ行ヒ書記員ハ書
記官ノ爲スベキ職務ヲ行フ

第八條 司法部大臣ノ指定スル司法檢察官ヲ以テ
之ニ充ツ

第九條 承審員ハ薦任又ハ委任トシ司法部大臣之ヲ
補ス

第十條 審判署及檢察署ニ對スル司法行政ノ監督ニ
付テハ法院組織法ノ規定ヲ準用ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
興安省處理司法事務暫行辦法ハ之ヲ廢止ス
本法施行前興安各省ノ旗又ハ縣ノ司法機關ニ於テ受
理シタル事件ハ其ノ地ニ設立シタル審判署ニ於テ之
ヲ完結スベシ但シ未ダ審問開始裁定ヲ爲サザル刑事

事件ハ其ノ地ニ設立シタル檢察署ニ於テ之ヲ處理スベシ

前項ノ場合ニ於テ旗又ハ縣ノ司法機關ノ爲シタル事件ノ受理其ノ他ノ手續ハ其ノ地ニ設立シタル審判署又ハ檢察署ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

條 約

○建國ニ關スル

對外通告

(大同元年四月一日)
政 府 公 報

茲ニ奉天吉林〔黑龍江〕熱河〔東省〕特別區並蒙古各旗盟ノ民衆ハ全體奮起シテ獨立政府ヲ組織シ一九三二年三月一日ヲ以テ中華民國ヨリ完全ニ分離シ滿洲國ヲ建設ス本總長ヨリ貴外〔總長〕ニ對シ此旨ヲ通告シ得ルハ至極光榮トスル所ナリ惟フニ舊來軍閥東北諸省ニ盤踞シ人民ノ休戚ヲ顧ミズ惟私利ヲ是レ圖ル内ハ苛斂誅求ヲ擅ニシテ人民ヲ塗炭ノ苦ニ陥ラシメ外ハ信義ヲ無視シ各國ヲ目シテ仇敵ト爲ス加之中原ニ統一政府ナク群雄角逐シ戰禍連年同胞ヲ殺戮シ民生ヲ聊スルノ時ナシ是ニ於テ滿洲國人民ハ此ノ舊軍閥覆滅ノ機ニ乘ジ同心協力シテ新國家ヲ建設シタル次

第ナリ故ニ滿洲國政府ハ内ハ法律制度ノ完備ニ力ヲ竭シ以テ人民ノ安寧ヲ保證シ其ノ福利ヲ増進セシメ外ハ左ノ諸原則ヲ遵守シ以テ國交ノ親睦ヲ期シ世界平和ニ貢獻セントス

- 一 信義ヲ尊重シ事ノ大小ヲ論ゼズ總テ和睦親善ノ主義ニ基キテ之ヲ處理シ以テ國際平和ノ維持増進ヲ圖ル
- 二 國際間ノ信義ヲ尊重シ國際法規及慣例ヲ遵守ス
- 三 中華民國ノ各國ニ對シテ有スル條約上ノ義務中國國際法及國際慣例ニ照シ新國家ニ於テ當然繼承スベキモノハ直ニ之ヲ繼承シ誠意ヲ以テ之ヲ履行ス
- 四 外國人ノ滿洲國領土内ニ於テ有スル既得權利ヲ侵害スルコトナキハ勿論其ノ生命財產ニ對シテハ當然之ヲ保護ス
- 五 外國人ノ滿洲國ニ來住セントスル者ハ均シク之ヲ歡迎シ各民族ニ對シテ平等公正ナル待遇ヲ與フ

六 各國トノ通商貿易ハ努メテ之ヲ容易ナラシメ以テ世界經濟ノ發展ニ貢獻ス

七 門戶開放主義ヲ遵守シ外國人ノ滿洲國ニ於ケル經濟活動ニ對シテ便宜ヲ與フ

以上ノ諸原則ハ乃チ滿洲國建設ノ趣旨ナリ
茲ニ貴國政府ノ完全ナル諒察ヲ得且我滿洲國トノ間ニ正式ニ外交關係ヲ成立セラレントヲ切望ス
本通告ハ既ニ左ノ各國外務大臣又ハ外交總長宛ニ夫々發送セリ

| | |
|-------|---------------|
| 英 國 | エ ス ト ニ ヤ |
| 米 國 | 伊 太 利 |
| 日 本 | ラ ト ビ ヤ |
| 佛 國 | リ ス ア ニ ヤ |
| 獨 國 | 和 蘭 |
| 蘇 聯 | 波 蘭 |
| 埃 地 利 | 葡 萄 牙 |
| 白 耳 義 | チ エ ッ コ |
| 丁 抹 | |

○日滿議定書

(大同元年九月二十二日)
條約 第一號

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ大同元年九月十五日國務總理鄭孝胥ト日本帝國特命全權大使武藤信義ノ新京ニ於テ共同署名調印シタル議定書ヲ批准シ之ヲ公布セシム

(國務總理署)

議定書

日本國ハ滿洲國ガ其ノ住民ノ意思ニ基キテ自由ニ成立シ獨立ノ一國家ヲ成スニ至リタル事實ヲ確認シタルニ因リ滿洲國ハ中華民國ノ有スル國際約定ハ滿洲國ニ適用シ得ベキ限り之ヲ尊重スベキコトヲ宣言セラルニ因リ
日本國政府及滿洲國政府ハ日滿兩國間ノ善隣ノ關係ヲ永遠ニ鞏固ニシ互ニ其ノ領土權ヲ尊重シ東洋ノ平

和ヲ確保センガ爲左ノ如ク協定セリ
一 滿洲國ハ將來日滿兩國間ニ別段ノ約定ヲ締結セザル限り滿洲國領域内ニ於テ日本國又ハ日本國臣民ガ從來ノ日支間ノ條約協定其ノ他ノ取極及公私ノ契約ニ依リ有スル一切ノ權利利益ヲ確認尊重スベシ
二 日本國及滿洲國ハ締約國ノ一方ノ領土及治安ニ對スル一切ノ脅威ハ同時ニ締約國ノ他方ノ安寧及存立ニ對スル脅威タルノ事實ヲ確認シ兩國共同シテ國家ノ防衛ニ當ルベキコトヲ約ス之ガ爲所要ノ日本國軍ハ滿洲國內ニ駐屯スルモノトス
本議定書ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ生ズベシ
本議定書ハ日本文及漢文ヲ以テ各二通ヲ作成ス日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ據ルモノトス
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ
昭和七年九月十五日即チ大同元年九月十五日新京ニ於テ之ヲ作成ス

日本帝國特命全權大使 武藤信義印
滿洲國國務總理 鄭孝胥印

涉外法規

○滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ住居及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間條約

(康德三年六月十一日)
條約 第一號

朕參議府ノ諮詢ヲ經テ康德三年六月十日新京ニ於テ本國全權委員ガ日本帝國全權委員ト共ニ署名調印シタル滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ住居及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、外交部、民政部、財政部、實業部、司法部、蒙政部大臣署)

○滿洲ニ於ケル日本國臣民ノ住居及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間條約

大日本帝國政府ハ昭和七年九月十五日調印ノ日本國滿洲國間議定書ノ趣旨ニ據リ滿洲國ノ健全ナル發達ヲ促進シ且日滿兩國間ニ現存スル緊密不可分ノ關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシムル爲現ニ日本國ガ滿洲國ニ於テ有スル治外法權ヲ漸進的ニ撤廢シ且南滿洲鐵道附屬地行政權ヲ調整乃至移讓スルコトニ決シタルニ因リ

滿洲帝國政府ハ右日本國政府ノ決定ヲ多ストルト共ニ之ニ對應シテ日滿兩國臣民ノ滿洲國領域内ニ於ケル融合發展ヲ確保増進スルノ必要ナルヲ認メタルニ因リ

兩國政府ハ日本國ガ滿洲國ニ於テ有スル治外法權及南滿洲鐵道附屬地行政權ニ關シ先ヅ日本國臣民ノ居住及各種權利利益ノ享有並ニ滿洲國ノ課稅、産業等ニ關スル法令ノ適用ニ付左ノ通協定セリ

第一條 日本國臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ自由ニ居住往來シ農業、商工業其ノ他公私各種ノ業務及職務ニ從事スルコトヲ得ベク且土地ニ關スル一切ノ權利ヲ享有スベシ

第六條 本條約ノ正文ハ日本文及漢文トシ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本國政府ニ依リ之ヲ決ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名調印セリ

昭和十一年六月十日即チ康德三年六月十日新京ニ於テ本書二通ヲ作成ス

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使

植田謙吉

滿洲帝國外交部大臣 張燕卿

附屬協定

本日滿洲國ニ於ケル日本國臣民ノ居住及滿洲國ノ課稅等ニ關スル日本國滿洲國間條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條 滿洲國政府ハ從來日本國臣民ノ有スル商租權ヲ其ノ内容ニ應ジ土地所有權其ノ他ノ土地ニ關スル權利ニ變更スル爲速ニ必要ノ措置ヲ執ルベシ

第二條 條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國ノ課稅、産業等ニ關スル行政法令ノ範

日本國臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ一切ノ權利ノ享有及利益ノ享受ニ關シ滿洲國臣民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受クルコトナカルベシ

第二條 日本國臣民ハ滿洲國ノ領域内ニ於テ本條約附屬協定ノ定ムル所ニ從ヒ同國ノ課稅、産業等ニ關スル行政法令ニ服スベシ

南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ日本國政府ハ前項ノ滿洲國法令ガ本條約附屬協定ノ定ムル所ニ從ヒ屬地的ニ施行セラルコトヲ承認ス

本條ノ適用ニ關シ日本國臣民ハ如何ナル場合ニ於テモ滿洲國臣民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受クルコトナカルベシ

第三條 前二條ノ規定ハ之ヲ法人ニ適用シ得ル限リ日本國法人ニ適用スルモノトス

第四條 本條約ノ規定ハ日滿兩國間ノ特別ノ約定ニ基ク特定ノ日本國ノ臣民又ハ法人ノ權利、特權、特典及免除ニ影響ヲ及ボサザルモノトス

第五條 本條約ハ昭和十一年七月一日即チ康德三年七月一日ヨリ實施セラルベシ

圍及其ノ適用ノ態様ハ豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ協議決定セラルベシ

前項ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ニ付滿洲國政府ニ於テ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ日本國臣民ガ滿洲國ノ裁判管轄權ニ服スルニ至ル迄豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ノ承認ヲ經ベシ

本條第一項ノ規定ニ依リ條約實施後直ニ協議決定セラルベキ滿洲國法令ハ概ネ地稅、契稅、營業稅、法人營業稅、出產糧石稅、木稅、鑛業稅、鑛業登錄稅、酒稅、捲菸稅、統稅、商業登記稅、特許登錄稅、意匠登錄稅及地方稅ニ關スル課稅法令並ニ工業所有權、度量衡、計量、鑛業、市場、畜產、金融及專賣ニ關スル行政法令ニ限ラルベシ

滿洲國政府ハ前項ニ掲グル諸稅中營業稅及法人營業稅並ニ地方稅中房捐及戶別捐ヲ日本國臣民ニ課スルニ當リテハ條約實施後當分ノ内豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大

臣トノ間ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ輕減稅率ヲ適用スベク地方稅中營業稅附加捐ハ右輕減稅率ニ依ル稅額ヲ基準トスベシ但シ條約實施後直ニ適用スベキ輕減稅率ハ營業稅、戶別捐及個人ニ賦課スル房捐ニ付テハ原稅率ノ四分ノ一タルベク法人營業稅及法人ニ賦課スル房捐ニ付テハ原稅率ノ三分ノ一タルベシ

第三條 條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ノ日本國臣民ニ對スル適用及執行ニシテ司法手續ニ依ルベキモノハ日本國臣民ガ滿洲國ノ裁判管轄權ニ服スルニ至ル迄日本國領事官ニ於テ之ヲ行フモノトス
前項ノ場合ニ於テハ日本國領事官ハ領事裁判ノ一般準則ニ從ヒ滿洲國當該法令ヲ適用スベシ但シ右法令ニ掲グル刑ノ中有期徒刑トアルハ懲役又ハ禁錮、拘役トアルハ懲役若ハ禁錮又ハ拘留、罰金トアルハ罰金又ハ科料、過怠金トアルハ過料ト看做シテ之ヲ適用スベシ
本條ノ規定ニ依リ罰金、科料、過料又ハ沒收ノ言

渡アリタル場合ニ於テ其ノ罰金、科料、過料又ハ沒收物ハ滿洲國政府ニ歸屬スベシ

第四條 日本國政府ハ別ニ滿洲國政府ト協定スル所ニ從ヒ遅クモ昭和十二年十二月三十一日即チ康德四年十二月三十一日迄ニ滿洲國領域内ニ於ケル行政警察ヲ撤廢又ハ移讓スベク右撤廢又ハ移讓ニ至ル迄ハ條約第二條ノ滿洲國法令中課稅ニ關スルモノ及特ニ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル行政警察ト關係アルモノハ同附屬地ニ施行セラレザルベシ右ノ特ニ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル行政警察ト關係アル法令ノ範圍ハ豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ協議決定セラレベシ

滿洲國政府ハ前項ノ規定ニ鑑ミ其ノ警察制度ヲ整備スベク且關係日本側ノ施設及職員ノ引繼ニ付必要ナル準備ヲ爲スベシ日本國政府ハ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル行政警察ノ移讓ニ至ル迄同附屬地内外ニ於ケル日本國臣民ノ課稅上ノ負擔均衡ヲ確保スル爲條約實施ノ日ヨリ滿洲國ガ日本國臣民ニ課

スル國稅ト成ルベク同様ノ課稅ヲ同附屬地ニ於テ實施スベシ

滿洲國政府ハ日滿兩國政府ガ別ニ協定スル所ニ從ヒ南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル南滿洲鐵道株式會社ノ土木、教育、衛生等ニ關スル施設ノ處理ヲ經タル後ニ非ザレバ同附屬地ニ於テ地方稅ヲ課セザルベシ

第五條 條約第二條ノ規定ニ依リ滿洲國法令ガ南滿洲鐵道附屬地ニ施行セラルト同時ニ滿洲國政府ハ豫メ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ關係日本側ノ施設及職員ヲ右施行當時ノ狀態ニ於テ引繼グベシ

第六條 條約第二條ノ規定ニ依リ日本國臣民ノ服スベキ滿洲國法令ニ關スル滿洲國當該官憲ノ行政處分ニ對シ日本國臣民ニ於テ不服アルトキハ滿洲國政府ハ之ガ救正ニ付適當ナル措置ヲ講ズベシ

第七條 本協定ノ條項ニ從ヒ滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ト滿洲帝國外交部大臣トノ間ニ協

議決定セラレタル事項及滿洲國政府ガ同大使ノ承認ヲ經タル事項ハ夫々日滿兩國ノ官報ニ公示セラレベシ

第八條 本協定ハ條約ト同時ニ實施セラレベシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ
昭和十一年六月十日即チ康德三年六月十日新京ニ於テ之ヲ作成ス

滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使

植田謙吉印

滿洲帝國外交部大臣 張燕卿印

昭和十七年三月二十日 初版印刷
昭和十七年三月二十五日 初版發兌

日文・滿洲國基本法模範解答全集

滿洲司法協會編纂

編輯人兼
大阪市西區奧美町五八番地
馬場社

印刷人
京都市中京區柳馬場通三條南入
株式會社似玉堂

送費十六錢
福井松之助

| |
|----------|
| 不許複製 |
| 定價金一圓八十錢 |

發行所

大阪出版部 大阪市西區奧美町五八番地
新京事務所 新京市日本橋通り七六番地公報社內
電話新京③四〇五〇番 振替新京二二二二番

滿洲司法協會
會員番號一三一五〇九番

配給元

東京市神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社

新京特別市西七馬路拾四號
滿洲書籍配給株式會社
電話②一九一六九〇番
振替口座新京三二六〇番

滿洲司法協會刊行圖書目錄

滿洲帝國 行政區劃總攬

附(官廳公署銀行諸會社合作社)
日滿諸學校所在地便覽

滿日共用
定價七圓整
送費五角整

新制定 滿洲帝國六法

日文定價三圓八角整
送費三角整
滿文定價三圓三角整
送費三角整

滿洲帝國 官公職員 執務例規提要

日文版
定價三圓整
送費三角整

新最 高等官及委任官 文官考試應試方法解說

日文定價二圓三角整
送費二角整
滿文定價二圓三角整
送費二角整

新最 學術考查·人物考查·執務能力 文官考試問題全集

日文定價二圓八角整
送費三角整
滿文定價二圓五角整
送費二角整

滿洲國 文官考試必須科目 基本法模範解答集

附關係法令集

日文定價一圓八角整
滿文未定
送費一角六分整

新最 文官考試·檢定試驗(日本語) 語學問題及解答全集

日文滿文併用
定價二圓整
送費二角整

滿洲國
(文官考試問題對照)
常識論說全集

日文版
 定價 一圓八角整
 送費 一角六分整

最新
(滿日對譯)
滿洲國統制價格全集
 附 統制關係法令

定價 四圓二角整
 送費 三角整

新制定
檢察警察法規總攬
 附 諸法解說及司法例規

日文定價三圓五角整
 送費 三角整
 滿文定價一圓五角整
 送費 二角整

滿洲國
鐵道警護總隊法規總攬
 附 諸法解說及司法例規

日文定價四圓三角整
 送費 三角整
 滿文定價二圓八角整
 送費 二角整

| |
|-----|
| 423 |
| |
| 420 |

● ① 平 1.80